

2020年度 認定NPO法人ブリッジフォースマイル 事業報告

1、総括

2020年度は、コロナウィルスの影響抜きには語れない1年となりました。もともと事務局の仕事は、フリーアドレス、フルフレックスではあり、セルフマネジメントの文化があったことは幸いでしたが、公民館等で実施するセミナーや企業内で実施していたインターンをオンラインに切り替えるなど、子どもへの支援活動に

おいては大きな変更を余儀なくされました。生活基盤の脆弱な施設退所者たちは、このような社会的危機におかれるとあっという間に窮地に陥ってしまうため、緊急支援が必要となりました。未曾有の事態においても迅速な判断、実行できたことは、組織として着実に積み上げてきた成果だと感じることができました。

2、トピックス

■新型コロナ緊急支援

2020年4月に発出された緊急事態宣言を受け、生活が困窮している施設退所者等へ家賃補助やお米等の食料品発送を始めました。4月28日より寄付を募り、個人企業合わせて6000万円余の寄付をいただきました。5月9日に関東1都3県および佐賀県と熊本県の児童養護施設等へ案内、さらに5月29日に全国の児童養護施設等退所者を対象に拡大しました。

9月からは子育て中や就職活動中などの若者へ追加支援を開始、現金給付に合わせて毎月オンラインでの面談を実施するなど、退所者の生活状況をより詳しく把握し情報提供やアドバイスを行いました。

今年度、延べ733名へ計3910万円の支援を行うことができました。残っている寄付金は来年度に繰り越し、引き続き支援を行ってまいります。

■熊本県で行政受託事業開始

東京都からの「児童養護施設退所者等の就業支援事業(通称:ブリッジキャリア)」(2015-)、横浜市からの「施設等退所後児童のためのアフターケア事業(イツモプロジェクト)」(2012-)、佐賀県からの「18歳の巣立ち応援事業」(2018-)に続き、2021年1月、熊本県・熊本市より「施設退所児童等自立支援事業」を受託しました。施設等を退所する子どもたち・若者を対象とし、継続支援計画の作成、生活相談、就労支援、居場所「かたるベースくまもと」の運営を行います。

受託決定から事業開始まで、わずか1か月というあわただしさでしたが、現地スタッフ2名を中心にボランティアの協力や東京からのサポートを得ながら、居場

所の物件契約、スタッフ募集、3月に退所する児童9名分の継続支援計画の作成等を行いました。

熊本とのご縁は2014年に施設職員の方から「キャリアセミナーを実施してもらえないか」との声かけからはじまりました。B4Sのこれまでの経験・ノウハウを活かしつつ、熊本の地で多くの協力者・応援者を募り、地域に根ざした支援活動を進めていきます。

■9年ぶりのウェブサイトリニューアルの完了

2021年4月に団体ウェブサイトのリニューアル公開しました。この機に、ロゴ、団体カラー、ビジョンミッションを見直しました。JAMPPIA助成金による、長年の課題である財政基盤の安定化を目的としたものです。マーケティング市場調査、HPアクセス分析、重要ステイクホルダーへのヒアリング等の結果すべてを反映しています。

過渡期にある社会的養護の潮流を汲み啓発観点における情報の充実を図りつつ、団体への信頼感醸成、存在意義を伝えるウェブサイトが完成しました。

■寄付仲介サービス「トドクン」リリース

物品寄付仲介を子どものプログラム参加動機付けとする仕組み「トドクン」のWebサイトが、株式会社Sun Asteriskの開発ご協力の下、完成しました。

寄付品は307種、890点、535万円相当のご支援が集まりました。巣立ちプロジェクトに参加した子どもたち185名が一斉に申し込みを開始しましたが、トラブルも問い合わせも1件もなく、スムーズに仲介を行うことができました。今後は巣立ちプロジェクト以外の参加者にもポイント付与し、通年でトドクンを活用します。